

## 報 告

## 第25回北関東医学会奨励賞

平成8年に創設された北関東医学会奨励賞の今年度、第25回受賞者の募集が本会機関誌「The KITAKANTO Medical Journal」第71巻1号で行なわれた。理事会の決定により組織された北関東医学会奨励賞選考委員会（以下、選考委員会）が4月19日に行われ、松崎利行選考委員長の下、始めに選考方針の確認を行った。その結果、前年の方針に倣い、評価基準を1. 科学、臨床、保健医学上での重要性、2. 将来の発展性、3. 独創性、4. 北関東医学会・地域に対する貢献度、5. 論文全体にあらわれた業績とした。また、受賞年齢上限を厳格に適用することとした。続いて、候補者の選考に移り、選考委員に予め検討を依頼してあった各候補者の推薦書と「業績の課題」に関する論文2篇をもとに厳正なる審査を行った。その結果、受賞候補者として高橋遥一郎氏（群馬大学大学院医学系研究科法医学）を選出し、高橋氏の1名を第25回北関東医学会奨励賞受賞候補者として選考した旨を奨励賞規定に基づき会長に答申した。6月7日開催の令和3年度第1回理事会において、この1名の候補者を受賞予定者として決定し、10月1日に開催された令和3年度評議員会に報告した。また、同日の第68回北関東医学会総会会場において執り行われた北関東医学会奨励賞授与式において小湊慶彦会長より高橋遥一郎氏に賞状、記念楯および副賞が授与された。

## 北関東医学会奨励賞受賞者

氏 名 高橋遥一郎

所 属 群馬大学大学院医学系研究科法医学

最終学歴 群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻博士課程修了（平成27年3月）

業 績

- (1) 業績の課題 遺伝子検査と画像検査を導入した新しい法医実務の展開
- (2) 研究実施活動等の概要

本研究では、法医実務における遺伝子検査や死後画像検査の導入の有効性を実際の法医解剖例を用いて検討した。まず高度脂肪肝を伴った乳幼児死亡例では脂肪酸代謝異常症を疑って施行した遺伝子解析が病態の理解に有用であり、カルニチンパルミトイル基転移酵素2遺伝子や極長鎖アシル CoA 脱水素酵素遺伝子の変異が死因と関連したことが明かされた。さらに、これらの変異は成人期における突然死例にも関連することが示唆された。一方、死後画像検査は死後変化が進行した症例における脳出血、アプローチが困難である頭蓋底の血管破綻、解剖検査では証明が難しい空気塞栓症等の評価において特に有用であることを示した。また、死後冠動脈 CT 血管造影法や死後画像 3D フュージョン法等を開発し、同手法が病変の検索・評価や裁判員裁判での提示において有効であることを明らかにした。

- (3) 関連研究・関連活動等の概要

死後脳を用いて、被虐待例におけるエピジェネティクス解析や、統合失調症関連遺伝子に関するシングルセル解析を行い、形態学的に異常を指摘し得ない病態の死後診断法を模索している。高度脂肪肝を伴った突然死例に関しては、遺伝子解析を継続しており現在までに複数例で同一個人の脂肪酸代謝関連遺伝子に多数の既知や新規の変異が見出されている（未発表）。今後脂質分析や実験的検討を加え、突然死の分子基盤解明や診断法確立を目指す。死後画像検査に関して、CT や MRI 等の画像診断装置に依らない損傷・疾病の網羅的な描出方法として、組織透明化手法を開発し、現在論文投稿中である。